

4 世帯の状況

(1) 世帯人員

母子世帯の平均世帯人員は、3.36 人となっており、前回調査と比べ、0.15 人増加している。

また、死別世帯の方が、生別世帯より世帯人員が多い。

一方、父子世帯の平均世帯人員は、3.97 人となっており、母子世帯より多い。

表4 - (1) - 1 母子世帯の世帯人員

	総 数	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上	平均 世帯人員
平成10年	(100.0)	(33.4)	(35.2)	(18.1)	(8.0)	(2.8)	(2.4)	3.21人
平成15年 総 数	千世帯 1,225.4 (100.0)	369.4 (30.1)	432.8 (35.3)	221.3 (18.1)	102.3 (8.3)	59.1 (4.8)	40.6 (3.3)	3.36人
死 別	147.2 (100.0)	27.3 (18.6)	59.9 (40.7)	31.7 (21.6)	16.7 (11.4)	6.2 (4.2)	5.3 (3.6)	3.56人
生 別	1,076.4 (100.0)	340.3 (31.6)	372.9 (34.6)	189.5 (17.6)	85.5 (7.9)	52.9 (4.9)	35.3 (3.3)	3.34人

(注) 「世帯人員」とは、本人と子、両親、兄弟姉妹、祖父母等を含めた人員。

「世帯人員」の用語の定義は以下同じ。

表4 - (1) - 2 父子世帯の世帯人員

	総 数	2人	3人	4人	5人	6人	7人以上	平均 世帯人員
平成10年	(100.0)	(26.8)	(28.1)	(23.8)	(13.2)	(4.3)	(3.8)	3.54人
平成15年 総 数	千世帯 173.8 (100.0)	32.5 (18.7)	48.7 (28.0)	40.1 (23.1)	21.0 (12.1)	19.1 (11.0)	12.4 (7.1)	3.97人

(2) 母子世帯の世帯構成

子ども以外の同居者がいる母子世帯は 37.3 %となっている。

同居者の全ての種別において、その構成割合が前回調査と比べ増加しており、このうち「親と同居」が 24.7 %と最も多く、前回調査と比べ 1.7 %増加している。

表4 - (2) 世帯の構成

区 分	総 数	母子のみ	同居者あり	同居者の種別 (割合は総数との対比)			
				親と同居	兄弟姉妹	祖父母	その他
平成10年	(100.0)	(70.9)	(29.1)	(23.0)	(5.9)	(2.2)	(5.5)
平成15年 総 数	千世帯 1,225.4 (100.0)	768.7 (62.7)	456.6 (37.3)	303.3 (24.8)	104.9 (8.6)	45.8 (3.7)	177.2 (14.5)
死 別	147.2 (100.0)	81.1 (55.1)	66.1 (44.9)	30.0 (20.4)	4.4 (3.0)	7.1 (4.8)	47.6 (32.3)
生 別	1,076.4 (100.0)	685.8 (63.7)	390.5 (36.3)	273.3 (25.4)	100.5 (9.3)	38.8 (3.6)	129.6 (12.0)

(注) 同居者の種別については複数回答。